

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		大学の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン ケンシンガクエン 学校法人 研伸学園								
フリガナ大学の名称		イチノミヤケンシンダイガク 一宮研伸大学 (Ichinomiya Kenshin College)								
大学本部の位置		愛知県一宮市常願通五丁目4番1								
大学の目的		本学の建学の精神は、『生命の尊重や人間の尊厳を守ることを基本とした豊かな人間性を育み、人々との相互信頼を基盤とした看護の提供者を育成することにより、地域に根差した医療を実現する。』である。この建学の精神に基づき、本学の目的は、幅広い視野と高い倫理観をもつ豊かな人間性を基盤として、専門知識・技術とともに諸科学を基盤とした思考能力、場に応じた専門的判断力、問題解決能力、対人関係能力を育み、社会への貢献を志向する医療専門職及び研究者を育成することである。また、大学の所在地である愛知県一宮地域の保健・医療・福祉の諸機関との連携の下、大学の資源を活用して人々の健康とQOL（生活の質）の向上に寄与することを目指す。								
新設学部等の目的		看護学部の場合は、「第1に生命の尊重と人間の尊厳を理念として、人々と信頼関係を築きながら最適な看護を提供する看護職を育成する。第2に地域の人々の健康とQOLの向上を目指して、地域医療を担い発展させる看護職および看護研究者を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学部 (School of Nursing) 看護学科 (Department of Nursing)	4年	80人	年次 3年次 6	332人	学士 (看護学)	年 月 第 年次 平成29年4月 第1年次 平成31年4月 第3年次	愛知県一宮市常願通五丁目4番1		
	計		80	3年次 6	332					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		愛知きわみ看護短期大学 看護学科（廃止）（△80） ※平成29年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	看護学部 看護学科	講義	演習	実験・実習	計	126単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	看護学部看護学科	10人 (6)	5人 (2)	7人 (5)	8人 (1)	30人 (14)	4人 (4)	59人 (59)	
			-	-	-	-	-	-	-	
		計	10人 (6)	5人 (2)	7人 (5)	8人 (1)	30人 (14)	4人 (4)	59人 (59)	
	既設分	該当なし	-	-	-	-	-	-	-	
			-	-	-	-	-	-	-	
		計	-	-	-	-	-	-	-	
	合 計			10人 (6)	5人 (2)	7人 (5)	8人 (1)	30人 (14)	4人 (4)	59人 (59)
	教員以外の職員の概要	職 種			専 任		兼 任		計	
		事 務 職 員			10人 (10)		3人 (3)		13人 <13>	
技 術 職 員			0 (0)		0 (0)		0 <0>			
図 書 館 専 門 職 員			2人 (2)		1人 (1)		3人 <3>			
そ の 他 の 職 員			0 (0)		0 (0)		0 <0>			
計			12人 (12)		4人 (4)		16人 <16>			

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		運動場 借用面積： 1,487.59㎡ 借用期間： 20年		
	校 舎 敷 地		6,465.45㎡	- ㎡	- ㎡		6,465.45㎡				
	運 動 場 用 地		1,487.59㎡	- ㎡	- ㎡		1,487.59㎡				
	小 計		7,953.04㎡	- ㎡	- ㎡		7,953.04㎡				
	そ の 他		- ㎡	- ㎡	- ㎡		- ㎡				
	合 計		7,953.04㎡	- ㎡	- ㎡		7,953.04㎡				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
			8,361.34㎡	- ㎡	- ㎡		8,361.34㎡				
			(8,361.34 ㎡)	(- ㎡)	(- ㎡)		(8,361.34㎡)				
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体		
	8室		15室	5室	1室 (補助職員 0人)		0室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数			大学全体		
			看護学部			36 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	看護学部		14,473〔 824 〕 (14,473〔 824 〕)	38〔5〕 (38〔5〕)	3〔 3 〕 (3〔 3 〕)	1,220 (1,220)	4,063 (4,063)	89 (89)			
	計		14,473〔 824 〕 (14,473〔 824 〕)	38〔5〕 (38〔5〕)	3〔 3 〕 (3〔 3 〕)	1,220 (1,220)	4,063 (4,063)	89 (89)			
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
			484.50㎡		95		30,290				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
			-		体育室 359㎡						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む。）を含む。	
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円				
		共 同 研 究 費 等		500千円	500千円	500千円	500千円				
		図 書 購 入 費	9,045千円	5,400千円	5,238千円	-	-				
		設 備 購 入 費	51,210千円	-	-	-	-				
	学生1人当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,680千円		1,480千円	1,480千円	1,480千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要				寄付金、補助金等による							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		愛知さわかみ看護短期大学								
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	看護学科		3 年	80 人	1 年次 人	240 人	短期大学士（看護学）	1.02 倍	平成16年度	愛知県一宮市常願通五丁目4番1	
附属施設の概要			該当なし								

学校法人研伸学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
--------	----------	-----------	----------

愛知きわみ看護短期大学			
看護学科	80	-	240
計	80	-	240

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由

二宮研伸大学				大学新設
看護学部				
看護学科	80	3年次	332	
		6		
計	80	3年次	332	
		6		
愛知きわみ看護短期大学				
	0	-	0	平成29年4月学生募集停止
計	0	-	0	

教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教 養 科 目 群	人間・社会学関連科目	心理学	1前	2		○				1				兼1	
		哲学入門	1前	1		○								兼1	
		文化人類学	1前	2		○								兼1	
		現代社会と経済	1前	2		○								兼1	
		運動の科学	1後	1		○								兼1	
		運動の科学・実技	1後	1			○							兼1	
		ジェンダー論	1後	1		○								兼1	
		加齢の科学	1後	1		○								兼1	
		法学	2前	2		○								兼1	
		現代社会と家族	2前	1		○								兼1	
		生命倫理	3前	1		○			1						
		支援論	3前	1		○								兼1	
	コミュニケーション関連科目	国語表現	1前	2		○						1		兼2	オムニバス
		英語Ⅰ	1前	2		○								兼2	共同
		英語Ⅱ	1後	2		○				1					
		コミュニケーション論	1後	1		○									
		中国語	2前	2		○								兼1	
		ポルトガル語Ⅰ	2後	2		○								兼1	
		ポルトガル語Ⅱ	3前	1		○								兼1	
		医療英語	3前	1		○								兼1	
	自然科学関連科目	生物と環境	1前	2		○								兼1	
		統計学	1前	2		○				1				兼1	
		化学	1前	2		○									
		情報リテラシー	1前	1		○				1				※演習	
		情報科学	1後	2		○				1					
		微生物学	1後	1		○						1		兼1	オムニバス
		性と生殖の科学	2前	1		○								兼1	
	教養科目群	小計（27科目）	—	16	24	0	—		1	1	0	2	0	兼16	
連 携 科 目 群	智の創造関連科目	教養ゼミナール	1前	1			○		8	4		2		共同	
		研究入門	1後	1		○			1			2		オムニバス	
		連携ゼミナールⅠ	2通	1			○		9	5	6	2		共同	
		連携ゼミナールⅡ	3通	1			○		9	5	6	2		共同	
		アカデミックライティング	3前	1		○				1		2		オムニバス	
		英語文献講読	4後	1		○								兼1	共同
	連携科目群	小計（6科目）	—	4	2	0	—		10	5	6	2	0	兼1	
専 門 基 礎 科 目 群	人体の構造と機能	生化学	1前	2		○			1						
		解剖生理学概論	1前	1		○			1						
		解剖生理学Ⅰ	1前	2		○			1						
		解剖生理学Ⅱ	1後	1		○			1						
		解剖生理学演習	2前	1			○		2					兼1	オムニバス
		臨床栄養学	2前	1		○								兼1	共同※実習
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学概論	1後	1		○			1					兼3	オムニバス
		病態治療学Ⅰ	2前	2		○			1					兼3	オムニバス
		病態治療学Ⅱ	2後	2		○			1					兼4	オムニバス
		病態治療学Ⅲ	2後	2		○			1					兼4	オムニバス
		生体防御機構と免疫	1後	1		○			1					兼2	オムニバス
		臨床薬理学	2前	2		○			1					兼1	オムニバス
		こころの科学	3前	1		○								兼1	
	健康支援と保健医療システム	看護援助的関係論	1後	2		○			1	1	2				オムニバス
		医療と看護の倫理	1後	1		○			1					兼1	共同
		医療概論	1後	1		○									
		疫学	1後	1		○			1						
		保健・医療・福祉システム論	2前	2		○			1						
		公衆衛生学	2前	2		○			1						
		医療経済	3後	1		○								兼1	
		音楽療法	3後	1		○								兼1	
		看護情報学	4後	1		○								兼1	
		コミュニケーション支援論	4後	1		○				1				兼2	オムニバス
	専門基礎科目群	小計（23科目）	—	25	7	0	—		5	2	2	0	0	兼22	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(看護学部看護学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 門 科 目 群	看護 の 基 礎	基礎看護学Ⅰ	1前	2		○			2					オムニバス
		基礎看護学Ⅱ	1後	2		○			1	1	1	1	2	オムニバス 共同 ※演習
		基礎看護学Ⅲ	2前	2		○			2	1	1	1	2	オムニバス 共同 ※演習
		基礎看護学Ⅳ	2後	2		○			2	1	1	1	2	オムニバス 共同 ※演習
		基礎看護学Ⅴ	2前	2		○			2	1	1	1	2	オムニバス 共同
		基礎看護学実習Ⅰ	2後	1				○	1	1	1	2	4	共同
		基礎看護学実習Ⅱ	3前	2				○	1	1	1	2	4	共同
		看護学入門Ⅰ	1前		1	○			2	2	1	1		オムニバス 共同
		看護学入門Ⅱ	1前		1	○			1					
	看護 の 実 践	健康生活支援看護論	2前	2		○				1				兼2 オムニバス 共同（一部）
		プライマリヘルスケア論	2前	2		○			3					兼2 オムニバス 共同
		家族の健康と看護	2前		1	○				1				兼2 オムニバス 共同
		女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2		○			1		1	1		兼2 オムニバス 共同 ※演習
		女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2		○			1		1	1	1	兼1 オムニバス 共同 ※演習
		女性の健康生活支援看護実習	3後	2				○	1		1	1	1	兼1 オムニバス 共同 ※演習
		在宅看護論	2後	1		○					1	1		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		療養生活支援看護Ⅰ	2後	2		○			1		1	1		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		療養生活支援看護Ⅱ	3前	2		○			1		1	2		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		療養生活支援看護実習	3後	4				○	1		1	2	1	兼1 オムニバス 共同 ※演習
		急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2		○			1		2			兼1 オムニバス 共同 ※演習
		急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1			○				2		1	兼1 オムニバス 共同 ※演習
		急性期回復支援看護実習	4前	3				○			2		2	兼1 オムニバス 共同 ※演習
		高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2		○				1				兼1 オムニバス 共同 ※演習
		高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			○		2			1		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2				○	2			1		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2				○	2			1		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2		○			1					兼1 オムニバス 共同 ※演習
		こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			○		1		1	1		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		こどもの健康生活支援看護実習	3後	2				○	1		1	1		兼1 オムニバス 共同 ※演習
		こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2		○			1					兼1 オムニバス 共同 ※演習
		こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2		○			1	1	1			兼1 オムニバス 共同 ※演習
		こころの健康生活支援看護実習	4前	2				○	1	1	1		1	兼1 オムニバス 共同 ※演習
		医療安全管理論	3前		1	○								兼1 オムニバス 共同 ※演習
		感染予防看護論	3前		1	○					1			兼1 オムニバス 共同 ※演習
		クリティカルケア論	4前		1	○					1			兼1 オムニバス 共同 ※演習
		緩和ケア論	4前		1	○					1			兼1 オムニバス 共同 ※演習
		グローバルヘルスケア論	4後		1	○			1					兼1 オムニバス 共同 ※演習
	看護 の 統 合 と 発 展	看護教育学	3後		2	○			1					兼4 オムニバス 共同 ※演習
		国際看護論	3後		1	○								兼4 オムニバス 共同 ※演習
		看護管理学	4前	2		○			1		1			兼4 オムニバス 共同 ※演習
		災害看護論	4前		1	○								兼4 オムニバス 共同 ※演習
		キャリア形成論	4前		1	○								兼4 オムニバス 共同 ※演習
		総合ゼミナール	4通		2		○		9	5	6	2		兼4 オムニバス 共同 ※演習
		卒業研究	4通		2		○		9	1				兼4 オムニバス 共同 ※演習
		総合看護実習	4後	3				○	2	3	7	5		兼4 オムニバス 共同 ※演習
		看護実践論	4後		1	○			1					兼4 オムニバス 共同 ※演習
	専門 科目群	小計（46科目）	—	63	18	0	—	—	10	5	7	8	4	兼15
合計（102科目）			—	108	51	0	0	—	10	5	7	8	4	兼53

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学部看護学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
助産師課程専門科目群	周産期医学論	2後		2		○								兼6	オムニバス
	助産学総論	3前		1		○			1					兼1	オムニバス
	助産管理論	3前		2		○			1		1			兼1	オムニバス
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		○			1		1	1			オムニバス
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2			○		1		1	1			オムニバス
	助産学演習	4前		1			○		1		1	1			共同
	助産学実習Ⅰ	4通		9				○	1		1	1	1		共同
	助産学実習Ⅱ	4通		2				○	1		1	1	1		共同
	小計（8科目）	—	0	21	0	—			1	0	1	1	1	兼7	
全課程 合計（110科目）		—	108	72	0	—			10	5	7	8	4	兼59	
学位又は称号	学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上（教養科目群から8単位以上 〔人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上、自然科学関連科目から1単位以上〕、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上）修得し、合計で126単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：22単位〔学期〕、44単位〔年間〕） 上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群：人間・社会学関連科目「ジェンダー論」「現代社会と家族」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群：看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群：8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち、このうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものとして認める。								1 学年の学期区分					2学期		
								1 学期の授業期間					15週		
								1 時限の授業時間					80分		

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目群	人間・社会学関連科目		
	心理学	人間の心の仕組みや働き方に関する社会心理学（人間関係）及び発達心理学を中心に、心理学領域の諸理論を学ぶ。『エリクソンの発達段階』の概念を基本に、子どもの健やかな成長、青年、成人、高齢者における発達とは何か、人の成達はどのようなものか、発達段階別の特徴とともに、発達を阻害する要因及び発達を促すための支援についても理解する。これらの学びから、人間理解を深め、良好な人間関係を築くための自己と人間関係のあり方を考察する。	
	哲学入門	哲学に入る門は到る処にある。哲学への入門として、知識はどのようにして成立し、どのような性質のものかということは、哲学における一つの重要な問題である。ここでは、哲学の主要な一部門とされる認識論を取り上げ、知識の起源、認識、知識や真理の性質・起源・範囲（人が理解できる限度など）並びに限界について概説し、哲学とは何かを理解する。そのうえで、人間の身体が持つ性質（身体性）や知覚経験について考察することにより、人間として存在すること（生きること）の意味を考える。	
	文化人類学	グローバル社会においては、民族や人種、宗教の違いを超えて、多様な文化を認めあうことを必要としている。「他者を相対的に理解し、自己を理解すること」が文化人類学の本質である。文化相対性や自文化中心主義という概念の理解を経て、「他者」及び「自己」とは如何なる存在であるかを理解する。さらに、人間であるということはどういうことか、他者との関係をどう生きたらよいのか、人間としての生きることの意味は何かなどの人間理解を深める。	
	現代社会と経済	本科目では、経済学の基礎を学び、現代の社会が直面する様々な問題を経済の側面から考察する。経済の基本的な仕組みや現代の経済の考え方を理解し、現代社会で起きている主要な問題である不況・失業の経済分析、多重債務やブラック企業の出現、経済格差と貧困層の拡大への対応、年金制度、税金問題などの大要を把握するとともに、問題解明のための手法を学び、問題解決への方途を考察する。人間らしい暮らし、社会保障の充実、さらに、より良い医療や看護の実現について考える。	
	運動の科学	今日では、適切な身体運動やスポーツが健康維持・増進のために重要であることが科学的・医学的観点から説明され、社会に浸透している。本科目では、人間が生涯にわたり健康を維持獲得するための運動と運動習慣について理解する。現代生活における健康と運動の意義、運動と心身の健康との関係、生涯にわたって健康な生活を送るための運動習慣を身につける必要性を理解する。また、医療に携わる看護職が健康への助言者として必要な身体運動の実践に伴う身体機能の改善や留意点について理解を深める。	

教養科目群	人間・社会学関連科目	運動の科学・実技	運動の科学で学んだ身体運動が及ぼす健康への影響や身体の運動機能が、社会的環境や加齢などによって、どのように変化するか、及び身体運動の実践に伴う身体機能への影響を理解したうえで、健康づくりに効果的な身体運動を体験学習し、将来、健康支援を行うための基礎的な能力を身につける。また、身体運動の体験を通して生涯にわたる身体活動の習慣化、活発化を図る。さらに、生涯にわたる余暇活動の能力を高め、身体運動の経験を通して現代の教養人としての資質を高める。授業では、室内で実施可能な体力テスト、運動前後の準備運動、卓球（基礎運動、基礎技術練習、応用技術練習、ゲーム）を行う。	
		ジェンダー論	現代社会を最も根底的に規定する要素のひとつである「性差」を分析の基軸とし、身近な制度や慣習の成り立ち、男女のイメージの変容など、社会の中に溶け込んだ事象について論じる。今日の社会における重要な課題であるリプロダクティブ・ヘルス及びリプロダクティブ・ライツについても解説する。具体的には、ジェンダーの社会的特性と生物学的特性、ジェンダーと家族、性別役割と家族、性同一性障害、リプロダクティブ・ヘルス及びリプロダクティブ・ライツの概念と諸問題、「生む権利と生まない権利」などの事例について討論を通して学修し、理解を深める。	
		加齢の科学	体格や運動能力などの発達と加齢とはどのようなことかを解説し、身体能力の発達と加齢変化との関連、形態の発育と加齢変化、身体機能の発達と加齢変化、運動能力の発達と加齢変化、さらに、これらの変化と体力・運動能力テストとの関連について解説する。また、からだの発達と加齢に関するトピックスとして、子どもの肥満と身体活動、高齢者の筋量・骨量低下等の発育・加齢に伴って起こる健康上の課題を取り上げて健康寿命と食生活、運動生活、睡眠などの生活習慣のあり方について考察する。	
		法学	本科目では、法の内容と成立、法が扱う範囲と枠組み、歴史の変遷等の法学の基礎、日本国憲法及び憲法の成立の経緯とその沿革、構成、及び意義について学修し、理解を深めることを目的とする。授業では、基本権などの人権に焦点を当てて関連する法制度の仕組みと目的、意義を解説する。また、事例を通して、社会で起きる出来事を法制度との関わりの中で理解する。さらに、日本国憲法の成り立ちや内容が、国民の生活にどのように影響しているかを理解し、医療者として法の遵守の重要性を学ぶ。	
		現代社会と家族	本科目では、社会学の主要な理論と家族に関連する理論の基礎を学び、現代社会における集団としての家族の形態や機能、家族の変容や、結婚、夫婦の役割分担についての意識の変化について学修する。現代社会において課題となっている育児問題や、高齢化に伴う介護問題、家族に対する社会的制度の変遷などの事例を通して、社会と家族のつながりや家族の心理を、社会的側面から理解する。これらの学修を通して、家族を育む地域社会の風土、行政の政策、地域のサポートシステムについて考察する。	

教養科目群	人間・社会学関連科目	生命倫理	生命の尊厳とはどのようなことかを探求し、生命の尊厳を守るために、人間の尊厳、生命の尊重に関連する倫理的な視点と現代医療を中心とする倫理的な課題について学ぶ。授業の内容は、バイオエシックスの定義とバイオエシックス誕生の背景、生命倫理学の範囲と研究領域、生命倫理へのアプローチとして、「受精と生殖」、「死にゆく人々のケア」、「遺伝子治療と看護」、「臓器移植と人工臓器等の移植医療」、「人間の権利と福祉」などについて事例を紹介し、倫理的なあり方について討論を行い、看護職としての倫理的な判断能力や倫理的な態度の基礎を養う。	
		支援論	支援という概念を改めて定義し、その定義に至った理論的実践的な論点を解説する。さらに、行為としての支援の構造、支援行為に関連するいくつかの要因とプロセスなどについて学修する。グローバル時代の共生原理、福祉、教育、会社経営、人事、消費、創造などの様々な意思決定の場面で、我々は、個人又は集団、集団が属する地域をどのようにサポートすることができるのか、その条件と可能性を探求する。授業では、具体的な事例による支援の実際も紹介する。	
	コミュニケーション関連科目	国語表現	本科目では、日本語の音声言語表現や文字言語表現に関して幅広く学ぶ。社会人として、また職業人として必要とされる時・場・状況に即した言葉遣いや、日本語特有の表現、さらに、大学在学中に求められるレポートや論文作成に必要とされる適切な国語表現及び論理的な文章作成の基礎を学ぶ。音声言語表現として、「自己紹介」、「インタビュー」、「敬語の使用」についてロールプレイを通して理解する。そのうえで、文字言語表現の基本と文章作成の基本を学ぶ。小説や詩などの文学的表現、及びレポートや論文などの論理的表現について理解を深める。	
		英語 I	（概要）高校までに学習した英文法を復習しつつ、英語の基本的構文や文法の理解、文章読解力の向上を図る。また日常生活場面や看護場面を想定した実践的な英語表現能力の育成を図る。具体的には、日常生活に必要な挨拶や自己紹介等の表現及び応答が可能な基礎的なコミュニケーション能力と看護場面における病歴聴取に必要な語彙や表現を修得するとともに、ディクテーションやロールプレイを含む活動により英語コミュニケーション能力の向上を目指す。 （オムニバス方式／全 17 回） （65 Andrew D. Mckernon／8 回） 日常生活における挨拶・自己紹介などの英語コミュニケーション表現法、ロールプレイ （44 鹿山 由美／9 回） 看護場面における病歴聴取に必要な語彙や表現法、ロールプレイ	オムニバス方式
		英語 II	英語 I で学んだ英語の基本的構文や文法の理解をもとに、文章読解力の向上と日常生活場面や看護場面を想定した実践的な英語表現能力の育成を図る。具体的には、新聞などから得られる記事や医療関連の資料を用いて自分の考えを構成し、英文で表現するエッセイ・ライティングの手法を学ぶ。本科目では、解説文（Expository Essay）と論文形式の文章（Argumentative Essay）の作成を通じて、英語の文章構成や表現の基礎的な能力を育む。	共同

教養科目群	コミュニケーション関連科目	コミュニケーション論	情報の伝達や他者との意思疎通に必要なコミュニケーションとは何か、コミュニケーションの意味や方法、非言語的（身体的）コミュニケーションから言語的コミュニケーションなどの様々なレベルでのより良いコミュニケーションのあり方について学修する。様々な場面におけるコミュニケーションをロールプレイし、自分のみならず、他者とのコミュニケーションを振り返り、そこにある様々な力関係や規範の問題、より良いコミュニケーションについて考察する。	
		中国語	中国語の基礎であるピンイン（日本語のひらがなに相当）の読み書き、日常会話で使用される語彙、基本文法を学び、日常会話、医療に関する中国語の語彙や表現を学修する。これらの学修を通して中国語圏の人々の価値観、見方・考え方、文化などについて理解する。中国語の学修では、正確で美しい中国語を話せるようになるために必要な57個の発音と6つの基本文型を学び、自己紹介、質問と応答、簡単な説明などの基本的な日常会話能力を身につける。	
		ポルトガル語Ⅰ	ポルトガル語は、主として日本の東海地方で生活する外国人の多くが母国語として使用する言語であり、通常は、居住地域内では母国語で意思疎通を行っているが、医療を必要とする場合には近隣の医療機関等を受診する。そのため、医療機関におけるポルトガル語の通訳へのニーズは高い状況にある。本科目では、ポルトガル語によって基本的な日常会話や意思疎通ができることを目標に、ポルトガル語の基本的な文法や単語、会話表現を学修する。ポルトガル語を使用する国々の歴史や文化、価値観についても親しみを持って理解する。	
		ポルトガル語Ⅱ	本科目は、ポルトガル語Ⅰの学びを基盤にして、日本で生活するポルトガル語を母国語として使用する人々が医療を必要とする場合に、医療従事者と患者の間で必要となるポルトガル語による基本的なコミュニケーション能力を育む。本科目では、患者の健康状態に関する基本的な医学用語や看護用語を学修し、病状を質問する場合の用語と会話、衣食住・睡眠などの日常生活状況と問題を質問する場合に用いる用語と会話、さらに看護ケアや医学の基本的な用語を学修し、訪問看護や医療の場で活用できるようにする。	
		医療英語	診療録、医学・看護の関連文献、ケア場面に用いられる英語の語彙力や表現（述語の構造・用法）を学び、医療チームや患者との英語コミュニケーション能力の基礎を培う。呼吸器系、循環器系、消化器系、神経・感覚器系、腎・泌尿器系の解剖と生理学に関連する用語、徴候や症状、検査、診断で用いられる用語と用法を中心に学修する。また、精神医学・精神看護学や小児医学・小児看護学に関連する用語についても学修する。	

教養科目	自然科学関連科目	生物と環境	本科目では、生物学の発展を支え、基本となる細胞の構造、メンデル遺伝、遺伝子の複製などの個体の生まれる仕組みや遺伝に関する生物学の基礎知識を理解する。また、遺伝を支える規則性と多様性を持った個体が生まれる仕組みを理解する。そのうえで、生物が持つ多様性や生命現象の特徴、生物の発達とその存在意義、生命維持の仕組み、生物界における多様な生物間の関係について学修する。さらに、環境中の生物の生活や生態、生物同士の関係、生物と環境（気候や地質など非生物的環境と生物的環境を含む）の間の相互作用について学修する。また、生物は環境に影響を与え、環境は生物に影響を与えるという相互作用の側面から、地球温暖化、水質悪化などの問題について解説し、生態系の破壊など生物と地球環境に関する諸課題について考察する。	
		統計学	健康に関係する数量を数理科学的に捉えるための数学の基礎や統計学の基本的な考え方（分布、平均、標準偏差、中央値、分散、サンプルと母集団など）、統計処理を行う目的や意義、その限界を理解する。そのうえで、適切な統計処理の基本について学修する。授業では、統計学の基本的な用語、データの種類や研究目的に適した検定方法（カイ二乗検定、t検定、分散分析、相関係数、クラスター分析）の選択、統計処理のためのツールを使用して検定を行い、検定結果を適切に解釈し、表現する基本を理解する。	
		化学	自然科学を化学の側面から理解する。化学は、物質の構造、特性、変化、物質間の相互作用、エネルギーと物質の関係などを扱う最も基本的な分野である。化学の用語で表現される生化学、栄養学、生理学、薬理学などの分野を理解するために必要な、化学で用いられる専門用語、化学の基礎的な法則を学修する。化学の基本として、原子と分子、化学結合と化学反応、物質の三態と気体の性質、溶液とコロイド、酸、塩基、酸化還元反応などについて理解する。	
		情報リテラシー	大学での生活場面や学術的活動に求められる情報リテラシーの基礎を身につけることを目的とする。授業の前半では、おもに講義を通して情報化社会の現状や情報通信技術（IT）の歴史に関する基礎知識を学修する。授業の後半では、おもに演習を通してコンピュータの基本的な操作方法を学修する。具体的には、コンピュータのファイル操作や文字入力（タッチタイピング）、Word、PowerPoint、Excelの各アプリケーションの基本的な使い方を演習課題を通してそれぞれ体験的に学修する。	講義：5回 演習：4回
		情報科学	情報とは何かを理解し、社会においてどのように情報を活用すると良いかを考えるために、情報及び情報手段・情報技術の役割や影響、今日の情報管理及び倫理の課題について理解する。情報をより良く活用するために必要な情報リテラシー全般に渡る知識・技能を学び、科学的な根拠（エビデンス）を示す方法として必要な情報を識別し活用するために、インターネットによる情報収集・分析の方法、情報の整理、さらに分析した情報をより良く他者に説明するためのプレゼンテーション技術について学修する。	

教養科目	自然科学関連科目	微生物学	（概要）微生物学の基本について理解するために、微生物とは何か、微生物の基本的な構造と機能、微生物の分類とその特色について、概要を解説する。環境を形成している主要な微生物の種類とその性質、微生物が環境の中でどのような役割を果たしているかについて理解する。そのうえで、人の生活で活用されている微生物（応用微生物）の種類と特徴とともに、看護に必要な知識として、人の健康に影響を及ぼす主要な病原微生物の種類や特徴（病原性、耐性獲得の機序、健康障害）について学ぶ。 （オムニバス方式／全9回） (22) 伊東 裕康／5回 微生物とは何か、微生物の基本的な構造と機能、微生物の分類とその特色、地球環境の微生物、食品と微生物、農業・工業と微生物 (36) 田中 香お里／4回 人に対する微生物の病原性、病原性細菌と感染症、病原性ウイルスと感染症、病原性真菌・原虫と感染症	オムニバス方式
		性と生殖の科学	生物はすべて共通の祖先に由来すると考えられている。生命の誕生以来、途切れることなく続いてきたヒトの生殖細胞系列の形成メカニズム、性決定／分化／転換、「性」と「生殖」の発達と特徴を理解する。また、今日の体外受精や卵管内移植などの生殖補助医療に関わる医学的、倫理的な課題、今日増加している HIV やサイトメガロウイルスなどによる性感染症の問題とともに人の一生を通じた性と生殖に関する健康問題について学修する。さらに、性と生殖の発達における最近の課題についても言及する。	
連携科目群	智の創造関連科目	教養ゼミナール	本科目では、大学における学修に必要なレポートの文章構成（序論・本論・結論）、文章表現、図表の効果的な書き方・使い方、文献表記などの基本的な表現方法を学ぶ。そのうえで、少人数のグループ学習により、関心のあるトピックスに関するレポート作成の過程（文献の種類、文献検索・収集、文献の読み方、エビデンスの質の見分け方、レポートの作成、発表や討論）を行う。これらの学修を通して、基本的な学修スキルを身につけると共に、大学における学修への意欲を高める。	共同
		研究入門	（概要）関心のある事象について文献を収集して読み解き、活用するための基礎的な能力を育む。さらに、看護研究の必要性を理解し、研究疑問から研究の目的、デザイン、研究計画の作成、研究倫理申請など研究のプロセスを学修する。 （オムニバス方式／全9回） (1 土井 まつ子／1回) 研究とは、看護における研究の意義 (22) 伊東 裕康／4回 研究の出発点、量的研究法、研究疑問、研究のプロセス、プレゼンテーション (26 肥田 武／4回) 質的研究方法とは、研究疑問、研究のプロセス、プレゼンテーション	オムニバス方式

連携科目群	智の創造関連科目	連携ゼミナール I	本科目では、学生にとって関心のあるテーマや教員から提示されたテーマの中から、グループで取り組むプロジェクトテーマを決定し、グループで課題に取り組む。テーマへの疑問点を明らかにしながら、必要に応じて自己学習を行う。自己学習の内容を発表して、討論で知識を共有しながら、課題解決に向かってプロジェクトを進め、その経過と結果をレポートにまとめる。これらのプロセスを通して、自己学習力、根拠に基づく論理的な思考力と表現力、討論への積極的な参加と協働の姿勢を育む。	共同
		連携ゼミナール II	既修の科目（ゼミナールI）で学んだことを基盤に、学生が各自の関心課題を明確にして研究疑問（又は、課題解決のためのプロジェクトの目的）として表現する。さらに、研究疑問から研究テーマ（又は、プロジェクトのテーマ）に変換し、テーマとして表現する。テーマに関する文献検討を行い、研究計画書（又は、プロジェクト計画書）を作成する。各自の計画を発表して、計画書を洗練し、修正をして完成する。これらのプロセスを通して、論理的な思考力と表現力、討論への積極的な参加への姿勢、課題解決に向けた実践能力を向上させる。	共同
		アカデミック ライティング	（概要）教養ゼミナールにおいて学んだ、課題レポートの作成に必要な文章構成とその用語、文章表現、図表の作成、文献表記などの基本に関する学生の修得状況を確認し、必要な内容を補う。そのうえで、研究発表における抄録や要旨の作成、発表原稿の作成（ポスター、講演原稿）の基本を学ぶ。また、研究論文の種類と論文の構成（諸言、研究方法、結果、考察、図表作成、結語、文献表記など）の記述方法と学術的な表現方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全9回） ⑧ 石井 成郎／2回） 講義概要、論文の種類と構成、論文の必要性和目的、授業の振り返り （26 肥田 武・22 伊東 裕康／7回）（共同） 論文読解、論文作成の具体的な表現法（研究的問いの設定、先行研究、研究デザイン、データ採取方法、データ分析と結果の記述、図表の作成、結果・考察、文献表記、引用、文献リスト）	オムニバス方式・ 共同（一部）
		英語文献講読	基礎的な医療・看護学用語の定義を学ぶことにより、専門的・学術的な語彙力を養う。また、医療・看護関連の英文を読み、論文や記事の構成やよく使用される用語の使用方法を理解し、読解力を育む。英語で書かれた看護系の学術誌や医学雑誌、あるいは英字新聞や雑誌の医療関連記事を提示し、論文や記事を読み、ポイントや大意、概要を発表用原稿とレジュメを作成し、発表を行う。このような学修を通して、英語で書かれた論文や記事を正しく読み取る力を向上させる。	

専門基礎科目群	人体の構造と機能	生化学	人間の生命、身体の維持、食物の体内での利用過程などをはじめとする生命活動における生体中の生化学的機能とその仕組みについて学修する。具体的には、(1)生命体としての人体を概観し、細胞複製及び細胞を構成する各種成分の役割、(2)人体を構成する臓器の機能がどのように発揮されているか、(3)タンパク質、アミノ酸、糖質、脂質の代謝経路、及び代謝異常と遺伝病の発症メカニズムについて学ぶ。	
		解剖生理学概論	細胞の構造と機能、それを支えるエネルギー等の基本的な化学、脊椎動物の発生と分化、個体を構成する各臓器、組織の形態と働き、生命・生存の維持に必要な機能とホメオスタシス（恒常性）などの全身の機能と解剖生理学の基本的な用語について学修する。具体的には、真核細胞の形態と機能、左右相称生物の発生、脊椎動物の特色、臓器の組織とその由来、DNA、RNA、タンパク質、生物におけるエネルギーの産生と消費、恒常性の維持について解説する。	
		解剖生理学Ⅰ	人体の構造と機能、及び発達各期の解剖学的・生理学的な特徴と身体機能の変化について学修する。授業では、筋・骨格総論、骨格系について解説し、体幹（体軸）と体肢の骨格の区別や各々の骨の名称と形態、骨の機能について解説する。また、筋系では、筋組織の概要・形態、筋の機能、骨格筋における運動機能との関係について理解する。神経系（中枢神経、末梢神経）では、神経系の仕組み、機能と構造、神経系の発達と老化、感覚器系（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触覚など）と神経支配との関係について理解する。呼吸・循環器系については、肺、心臓、血管の解剖と機能、血液成分などについて解説する。	
		解剖生理学Ⅱ	解剖生理学Ⅰ（前期）に続いて、新生児期から高齢期に至るまでの人体の構造と機能について発達段階の順序に応じて学修する。この科目では、人の発生から小児期・思春期・成人期・老年期までの成長発達（発育）と性発達の特徴及び、妊娠期と出産後の変化、免疫系、消化器系、泌尿器系の解剖と生理について、各時期の特徴や変化を学修する。	
		解剖生理学演習	（概要）人体を直接観察する解剖場面の見学と、筋・骨格系、循環系、神経系、感覚系に関連する機能検査や測定、観察を実施し、結果の評価と記録を行う。これらの演習を通して、科学的な根拠に基づく臨床判断の基礎を身につけるとともに、医学・医療や看護において、人の身体を扱うことに対する生命の尊厳と倫理的な態度についても学修する。演習の内容は、骨・筋肉系に関する演習、感覚器系に関する演習、循環器系に関する演習、腹腔内臓器に関する演習、解剖見学実習を行う。 （オムニバス方式／17回） ⑫ 吉野 恵子・⑪ 吉野昌孝／14回）共同 内分泌系を構成する器官とそれらの機能について解説する。また、演習では、筋・骨格系、循環系、神経系、感覚系に関連する機能検査、測定、観察・記録を行い、その結果を評価する。 （51 千田 隆夫／3回） 解剖見学実習の方法、留意点、事前学習課題の提示、解剖見学実習	オムニバス方式・共同（一部） 演習：14回 実習：3回

専門基礎科目群	人体の構造と機能	臨床栄養学	栄養と栄養素、食品の機能について学習し、ライフステージと栄養の関係を理解する。生命維持や日常生活の活動に必要な栄養と消化・吸収など栄養摂取の仕組みについて学ぶ。食事摂取基準、栄養評価・判定の方法と、健康状態に対応した栄養管理の基本と栄養管理の実践について学修する。また、入院患者に対する栄養サポートチーム（NST）による栄養管理について学び、看護に必要な臨床栄養学の知識と看護師の役割について理解する。さらに、最近増加傾向の健康食品と医薬品や食品との相互作用についても学ぶ。	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学概論	疾病の成り立ちと回復の促進について理解するために、疾病とは何か、疾病の原因や要因、症候や病理学所見とともに、疾病が及ぼす生活への影響、看護のポイントについて学修する。また、現代医療において行われている主要な疾患の診断や治療の動向についても学修する。授業では、病気の原因と分類、細胞・組織の障害と修復、循環器障害、感染症、代謝障害、老化と死、先天異常と遺伝子異常、腫瘍について発症の機序や原因・要因について解説する。	
		病態治療学Ⅰ	（概要）成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴（疫学、病態、予後、症状、診断・治療）について学修する。本科目では、成人期における呼吸・循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、運動器系、代謝・内分泌系の主要な疾患及び悪性新生物の病態と治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響や看護の必要性を理解する。 （オムニバス方式／全17回） ① 吉野 昌孝／2回 ガイダンス、臨床医学、症候論、疾患の診断・治療、中間テスト、授業の振り返りとまとめ （69 海川 和幸／5回） 循環器疾患と診断・治療 （71 岡澤 光芝／4回） 呼吸器系疾患、感染症と診断・治療 （70 村瀬 寛／6回） 悪性新生物、代謝性疾患、腎疾患、消化器疾患（内科系）と診断・治療	オムニバス方式

専門基礎科目群	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療学Ⅱ （概要）成人及び高齢者において発生頻度が高い重要な疾患とその特徴（疫学、病態、予後、診断・治療）について学修する。本科目では、脳・神経系、消化器系、骨・運動器の主要な疾患の特徴と診断・治療を学び、疾病が及ぼす生活への影響、看護の必要性を理解する。 （オムニバス方式／全17回） （Ⅱ 吉野 昌孝／3回） ガイダンス、神経系疾患と診断・治療、中間テスト、授業の振り返り （72 近藤 三隆／6回） 消化器疾患（外科系）と診断・治療 （73 今井 秀／3回） 脳・神経系疾患と診断・治療 （74 唐澤 善幸／5回） 骨・運動器疾患と診断・治療	オムニバス方式
		病態治療学Ⅲ （概要）小児（新生児・乳児・幼児・学童）と女性の思春期、妊娠、出産、更年期に関連して起こる主要な疾患（疫学、病態、予後、病態、診断・治療）について学修する。また、新生児期と小児期、思春期の発育や発達と発達障害を学び、疾病が及ぼす生活や発達への影響、看護の必要性について理解する。 （オムニバス方式／全17回） （Ⅲ 吉野 昌孝／2回） ガイダンス、中間テスト、授業の振り返りとまとめ （77 金子 淳／4回） 新生児期の主要な疾患と診断・治療、新生児発育と栄養 （76 早川 朋人／2回） 小児期の成長発達、小児期の主要な疾患と診断・治療 （75 北川 幸子／6回） 小児期の成長発達、小児期の主要な疾患と診断・治療 （43 三嶋 廣繁／3回） 思春期医学、周産期医学（妊娠・出産・分娩時の異常、ハイリスク妊娠、妊娠期の感染症、合併症）、更年期医学	オムニバス方式

専門基礎科目群	疾病の成り立ちと回復の促進	生体防御機構と免疫 （概要）人体は、異物の侵入や傷害から自らを守る機能、すなわち物理的バリアー、線毛、分泌物など局所レベルでの生体防御機構を持つ。また、組織が傷害されると、人体の炎症反応性の非特異的な応答と特異的な免疫応答を刺激し、異物の排除と組織修復が行われる。本科目では、異物排除と組織修復の機序について学修する。また、創傷治癒や生体防御を促進する看護についても学ぶ。 （オムニバス方式／全9回） （37 松本 義也 ／4回） 創傷の発生と組織修復の機序（再生、繊維化、肉芽形成、瘢痕化）、皮膚科疾患の診断と治療 （1 土井 まつ子／1回） 褥瘡の発生と看護 （36 横地 高志／4回） 免疫反応：非特異的免疫反応と特異的免疫について	オムニバス方式
	臨床薬理学	（概要）種々の疾患に使用される主要な薬物を中心に、薬物の生態に対する作用（薬理作用）と生態の薬物に対する反応（吸収、分布、代謝、排泄等の薬物動態）、及び薬物間の相互作用、薬物と他の物質との相互作用について学修する。薬物処方、投与、管理の方法、留意事項についても学び、適切な薬物療法について理解を深める。 （オムニバス方式／全17回） （2 吉野 恵子／4回） ガイダンス、薬理学とは、薬剤の作用機序、中間テスト、授業の振り返り （56 松葉 和久／13回） 抗生物質、ホルモン関連の薬剤、代謝関連薬剤、向精神薬、神経疾患薬、呼吸・循環器系薬剤、鎮痛薬、解熱、血液製剤	オムニバス方式
	こころの科学	こころの健康問題は、人生のあらゆる時期や生活している人々の場で生じる最も注目すべき課題である。こころの健康問題が生じたときに、人はどのように対処するか、健康問題発生のメカニズムと発生を予防すること、こころの健康をどのように保っていくか、さらにはこころの健康問題を持つ人を援助することの意義について学修する。主要なこころの健康問題として、身体的愁訴、気分障害（うつ）、認知機能障害、統合失調症、パーソナリティと発達障害について取り上げ、理解を深める。	

専門基礎科目群	健康支援と保健医療システム	看護援助的関係論	（概要）看護実践の基礎である援助的人間関係について理解し、その形成に関する理論と技法について学修する。また、看護実践における患者－看護職者関係を築き発展させる過程における他者理解や自己理解について、グループダイナミクスを活用した援助関係に関する演習を通して体験的に学ぶ。 （オムニバス方式／全17回） 〔6〕 石村 佳代子／8回） 人間関係論の基本、社会的役割と人間関係、患者－看護師関係、援助的コミュニケーション、対人関係の看護論、看護におけるグループアプローチ、医療チームにおける人間関係 〔10〕 千々岩 友子／1回） アサーティブコミュニケーション 〔18〕 出口 睦雄／1回） ロールプレイングの活用、構成要素 〔6〕 石村 佳代子・〔10〕 千々岩 友子・〔17〕 岡田 摩理・〔18〕 出口 睦雄／7回） 自己理解と他者理解、交流分析、看護場面の再構成、ロールプレイング、グループ体験	オムニバス方式・共同（一部）
		医療と看護の倫理	本科目では、医療倫理・看護倫理の起源と歴史、及び医療者の倫理的態度の基本を学修する。医療における人間の尊厳や自律的意思決定と意思決定支援のあり方、インフォームドコンセント（IC）の意味とICを得る方法、個人情報保護法と守秘義務、さらに、ソーシャルネットワークワーキングサービス（SNS）の活用における倫理的な取り扱いについて、医療専門職者としての自覚を促す。そのうえで、看護職者として取るべき態度を具体的事例により討論し、代表的な倫理綱領、関係法規、ガイドラインなどを踏まえて考察する。	
		医療概論	健康と疾病の概念、及び国民健康づくりの概要、医療の成立における社会資源（人的資源、医療施設や機器、薬剤、医療関連法規、医療保険制度、医療政策）、医療の提供に必要な病院の管理・運営とその組織について理解し、医療の質を向上するための評価の仕組みについて学修する。また、現代医療の動向や現状、及びその課題についても理解し、人々がより健康な生活を送るための医療の提供と医療者の役割、医療者に求められる倫理について学修する。	
		疫学	疫学概念、疫学研究の基本を学ぶ。疫学的方法を活用して、個人や集団における健康状態を、文化的要因、環境要因、職業要因、遺伝的要因、生活習慣や年齢要因などから総合的に把握し、健康の維持増進、疾病予防について考えていく。疾病予防・健康の維持・増進を図るために、集団の健康に関する事象の分布を明らかにし、病気の原因や危険因子を多方面から評価することを理解する。授業では、疫学の歴史と概念、疫学指標、疫学研究法、標本の妥当性と精度、疫学的因果関係、スクリーニングの方法、研究における誤差と偏りの制御、論文読解の留意点について解説する。	

専門基礎科目群	健康支援と保健医療システム	保健・医療・福祉システム論	社会保障の理念と制度について、我が国における保健・医療・福祉システムの特色と意義、システムの現状とその課題について理解する。また、健康課題の解決に必要な保健医療福祉行政のサービスや社会資源について学修する。授業では、社会保障の歴史と理念、社会保障の全体像、地域保健法と地域保健行政、健康増進法と健康日本 21、母子保健法と健やか親子 21、労働基準法、医療保険制度の概要、介護保険と介護サービス、社会福祉法とシステム、精神保健福祉法と精神福祉行政、生活保護法とサービス内容、感染症法と予防接種、医療法、保健医療分野における国際協力源、さらに企業や市民参加などの連携によって行われる具体的な活動について解説する。	
		公衆衛生学	公衆衛生学とは、地域社会や産業現場などの公衆（集団）における、人々の健康の維持・増進を図る学問である。共同社会の組織的な努力を通して、地域住民の健康増進・維持、疾病の予防、早期発見に重点をおき、すべての生活者の健康の実現を追及する公衆衛生的考え方の基本を理解する。また、少子高齢社会の日本における出生から高齢までの各段階における健康課題とその対応策についても理解する。授業では、地域保健、産業保健、母子保健、学校保健、高齢者保健、精神保健、感染症の動向、我が国及び世界における環境問題について解説する。	
		医療経済	本講義では、医療の持つ様々な経済的特徴を踏まえたうえで、医療の消費者及び提供者の立場から、より良い医療の提供と医療提供の仕組みについて理解する。医療の質管理（医療の標準化、クリニカルパス、病院機能評価）とその評価、医療保険、及び我が国の保健診療と医療費支払い（支払の仕組み、診療報酬制度、社会保険制度、公費負担事業、DPC データの活用など）について学修する。これらの学びを通して、臨床実践が病院経営に関わっていることを理解する。	
		音楽療法	本科目では、人が心地よく感じる音の種類と生態への影響、人と音楽との関係について解説し、音楽を用いて苦痛の緩和、リラクゼーション、精神的安寧などを図る方法とその効果と健康への影響について、事例を提示して紹介する。また、医療や看護における音楽の活用の実際として音楽トランポリン療法による意識障害患者事例、脳損傷事例と音楽療法の活用、高齢者への活用事例を紹介する。さらに、音楽の鎮静効果、音楽と情動反応との関連についても解説する。これらの学修を通して医療や看護における音楽療法の意義とその活用について理解する。	
		看護情報学	看護情報は、患者ケアのための基礎知識や新しい知識を得るのみではなく、看護情報を活用することで、より効果的に看護を実践できるように看護師を支援するものであり、看護教育、看護研究、看護管理の分野において活用されている。本科目では、看護と医療情報の定義、医療、看護分野における情報化の動向、看護情報を活用する目的と意義、情報保護の基本、病院情報と電子カルテシステムの運用、医療の評価と意思決定について理解し、保健・医療・看護活動や看護の研究への活用と活用上の課題について学修する。	

専門基礎科目群	健康支援と保健医療システム	コミュニケーション支援論	（概要）発達障害・聴覚障害・高次機能障害（失語など）により意思伝達における障害を持つ人々のコミュニケーション上の課題を理解する。そのうえで、実際的な意思伝達の方法について学び、人々へのより良い支援の必要性和方法を学修する。授業では、高次機能障害である失語症患者、発達障害を持つ小児、聴覚障害者、及び高齢者との効果的なコミュニケーション方法を取り上げる。 （オムニバス方式／全9回） ⑨ 兼田 美代／5回） ガイダンス、高齢者とのコミュニケーションの特徴、難聴の高齢者・認知症患者とのコミュニケーション、授業のまとめと振り返り （38 國島 典子／2回） 発達障害を持つ小児とのコミュニケーション （39 鈴木 朋子／2回） 高次機能障害患者とのコミュニケーション	オムニバス方式
専門科目群	看護の基礎	基礎看護学Ⅰ	（概要）意図的な看護実践とは何かを問い、クリティカルシンキング、対人関係スキル及び看護技術を活用した計画的な看護実践の意義を理解する。また、看護実践において、看護の対象に必要で効果的な看護を導き実践するためのアセスメントや、看護の基本となる用語や概念、方法について学修する。さらに、主要な看護理論や看護に関連する領域の理論を紹介し、理論がどのように看護の実践に活用されているか、また看護学の発展との関係で理論のもつ意義を学ぶ。 （オムニバス方式／全17回） （5 白鳥 さつき／8回） ガイダンス、看護とは、看護の方法、看護倫理①②、看護理論とは、オレム看護理論、看護理論の活用、チームと協働、チーム医療 （6 小林 たつ子／9回） 看護学とは、看護師の役割、看護の対象の理解、人間関係のプロセス、クリティカルシンキングと看護過程①②、主要な看護理論（ナイチンゲール）、主要な看護理論（ヘンダーソン）、授業の振り返り	オムニバス方式

専門 科目 目 群	看護 の 基礎	基礎看護学Ⅱ	（概要）人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた基本的生活援助技術とバイタルサインの測定技術を学修する。また、対象者の安全性、安楽性（快適性）、自立性を考慮した日常生活への援助、その人らしく生活を送るための援助の方法について学修する。 （オムニバス方式／全26回） （6 小林 たつ子／6回） ガイダンス、看護技術の意義、看護技術の基本、医療安全の確保、生活環境を整える、病室内の環境を整える、食事の援助（経口摂取）、清潔の援助、授業の振り返り （④ 梶山 委都子／2回） 活動と休息を整える、睡眠と休息、移動と移送の基礎知識と援助 （13 鈴江 智恵／2回） 衣生活を整える、排泄への援助 （25 田畑 真澄／1回） バイタルサインを測定する意義と実際 （6 小林 たつ子・④ 梶山 委都子・13 鈴江 智恵・25 田畑 真澄／15回）（共同） 栄養状態・摂食行動のアセスメント・食事介助技術、排泄状態のアセスメントと排泄への援助技術、歩行時のアセスメントと歩行介助、車いす使用時の援助、ストレッチャーでの移送、清潔への援助技術（清拭・足浴・洗髪）、体位変換と寝衣交換、中間試験、授業の振り返り	オムニバス方式・共同（一部） 講義：11回 演習：15回
--------------------	---------------	--------	---	---

専門 科目 目 群	看護 の 基 礎	基礎看護学Ⅲ	（概要）何らかの健康問題を持つ人のニーズを踏まえ、必要性和科学的根拠に基づいて実施する援助技術で、主として薬物療法、栄養障害のケア、皮膚・排泄障害のケアなどの病態や治療に伴って必要となる看護ケアについて学修する。演習では、無菌操作の基本と基本技術、無菌的採尿法、与薬（内服、点眼・点鼻、注射、点滴療法）、浣腸、尿失禁と皮膚トラブル、栄養障害と皮膚トラブル、皮膚トラブルのある患者のアセスメントとケアについて実施する。 （オムニバス方式／全26回） （5 白鳥 さつき／7回） ガイダンス、与薬（内服、点眼・点鼻、注射、点滴療法）、浣腸、授業の振り返り （④ 梶山 委都子／4回） 感染予防の基本技術、手洗いとガウンテクニック、無菌操作の基本技術、無菌尿の採取、栄養障害と皮膚トラブル （13 鈴江 智恵／1回） 尿失禁と皮膚トラブル （5 白鳥 さつき・6 小林 たつ子・④ 梶山 委都子・13 鈴江 智恵・25 田畑 真澄／14回）（共同） 手洗いとガウンテクニック、無菌操作技術、与薬（注射、点滴、輸液管理法）、浣腸、導尿、皮膚トラブルとスキンケア	オムニバス方式・共同（一部） 講義：12回 演習：14回
--------------------	-------------------	--------	--	---

専門科目群	看護の基礎	基礎看護学Ⅳ	（概要）ヘルスアセスメントの概念、目的、方法論の全容を学び、対象を全人的に把握することの重要性とその意義を理解する。ヘルスアセスメントに必要な観察技術や測定技術、コミュニケーション技術を用いて対象の健康状態を査定し、正常と正常からの逸脱を判断できる知識・技術について学修する。さらに、看護過程の一環として、アセスメントが実施され、アセスメント結果に基づいて看護の対象の健康状態を評価し、看護目標や計画の立案、看護実践を導くことを理解する。 （オムニバス方式／全26回） （5 白鳥 さつき／5回） ガイダンス、看護実践におけるヘルスアセスメントの意義、基本技術、健康歴の聴取、身体計測と栄養状態のアセスメント、腹部・乳房のアセスメント、神経系のアセスメント、授業の振り返り （6 小林 たつ子／1回） バイタルサインズの測定法（体温、脈拍、呼吸、血圧） （④ 梶山 委都子／3回） 心臓・血管系のアセスメント（心臓・血管の機能と構造、心音の聴診）、呼吸系のアセスメント （<u>13</u> 鈴江 智恵／2回） 頭部・頸部・顔面のアセスメント、筋・骨格のアセスメント （5 白鳥 さつき・6 小林 たつ子・④ 梶山 委都子・<u>13</u> 鈴江 智恵・<u>25</u> 田畑 真澄／15回）（共同） 呼吸・循環のアセスメント、腹部・乳房のアセスメント、頭・頸部のアセスメント、筋・骨格のアセスメント、神経系のアセスメント、事例展開（ゴードンの枠組み）、技術試験	オムニバス方式・共同（一部） 講義：11回 演習：15回
-------	-------	--------	--	------------------------------------

専門 科目 目 群	看護 の 基 礎	基礎看護学Ⅴ	（概要）看護過程の展開の一連のプロセスと各段階の目的と方法を学修する。事例を通して、情報収集とその分析、アセスメント、看護診断、看護計画の立案、実施、実施した結果の評価の実際を理解する。授業では、看護過程とは何か、看護過程を看護で活用する意義、看護理論の枠組みと看護過程、ヘンダーソンの基本的ニーズと看護過程の展開、ゴードンの機能的健康パターンによる看護過程の展開、看護過程の各プロセス、情報収集と情報の種類、情報の整理・分析、統合と全体像、看護問題の考え方、看護記録の作成、看護サマリーについて学修する。 （オムニバス方式／全 17 回） （6 小林 たつ子／7 回） ガイダンス、看護過程とは、情報の収集、アセスメントと看護診断、関連図の作成、計画立案、ヘンダーソンによる看護過程の展開、ゴードンによる看護過程の展開、授業の振り返り （5 白鳥 さつき・6 小林 たつ子・④ 梶山 委都子・13 鈴江 智恵・25 田畑 真澄／10 回）（共同） 事例展開 1（ヘンダーソンの枠組み）、事例展開 2（ゴードンの枠組み）、発表と評価	オムニバス方式・ 共同（一部）
		基礎看護学実習 Ⅰ	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた基本的生活援助技術とバイタルサインの測定等のアセスメントを実施し、対象者の安全性、安楽性（快適性）、自立性を考慮した日常生活への援助、その人らしく生活を送るための援助の方法と看護における倫理について学修する。また、多様な対象者及び看護専門職との触れ合いを通して看護実践の基盤となる多様性の理解やコミュニケーション能力を高める。	共同
		基礎看護学実習 Ⅱ	基礎看護実習Ⅰの学修を踏まえ、健康上の問題のために生活の日常性が損なわれている対象者と援助的関係を築きながら、日常生活援助を中心に、対象の安全性・安楽性・個別性、自立性を考慮した看護を計画し実践する能力を育む。1名の患者を受け持ち、科学的根拠と看護理論を活用した看護過程の展開の実際を学ぶ。また、看護実習の体験から、患者と看護師関係のあり方、看護倫理について考察する。実習中のカンファレンスやレポート作成などを通して実施した看護を振り返り、自己の学びや今後の課題を明確にする。	共同

専門科目群	看護の基礎	看護学入門Ⅰ	（概要）大学で看護学を学ぶにあたり、看護学部の理念、教育目標、4年間の看護学教育の目的、カリキュラムの構成、各科目群の特徴を解説する。そのうえで、科目担当教員の専門性（研究活動や看護実践活動）を紹介する。将来のキャリアを具体的に考える機会として、看護師、保健師、助産師、専門性の高い看護の実践者の実践とキャリア形成について説明を受ける。また、教員を訪問して教員の専門分野や担当科目をより深く理解する機会を持つことを勧め、大学における学修への興味・関心を喚起する。学生自身が興味を持つ学問分野の理解を手掛かりにして、ゼミナール選択の参考にするとともに、今後の学修への意欲を高め、自己の看護観やキャリア形成を考えることを意識づける。 （オムニバス方式／全9回） （1 土井 まつ子／6回） 看護学部の理念、教育目標、看護学教育の目的、カリキュラムの構成、各科目群の特徴と意義、教養科目群の教育の特徴と担当教員の紹介、専門基礎科目群の科目の特徴と担当教員の研究紹介、専門科目群の教育の特徴と教員の研究紹介、授業の振り返りとまとめ 〔13〕 鈴江 智恵・〔23〕 赤羽根 章子／1回）（共同） 看護師・保健師の看護実践とキャリア形成 〔5〕 田辺 圭子／1回） 助産師の看護実践とキャリア形成 〔9〕 兼田 美代・④ 相山 委都子／1回）（共同） 専門性の高い看護師の看護実践とキャリア形成	オムニバス方式・共同（一部）
		看護学入門Ⅱ	本科目では、看護と看護職の起源、文化や社会構造の変化に伴う看護実践や看護学、看護職の教育や法制度の変遷を概観する。そのうえで、看護実践とともに発達してきた看護の諸理論や看護に対する考え方、今日の看護職に対する社会の認識や看護活動について理解する。さらに、学生や家族等の病気体験における看護職との関わり、身近な人々に対して看護や看護職のイメージ、看護職に求める役割に関するインタビューを行い、学生間で発表と意見交換を行う。教員を訪問して教員の専門分野や担当科目をより深く理解する機会を持つことを勧め、看護や大学における学修への学生の興味・関心を喚起する。これらの学びを通して社会が求める看護、看護職への期待（資質・能力）について理解する。	

専門 科目 目 群	看護 の 実 践	健康生活支援 看護論	地域で生活する看護の対象を、「生活者」として理解するとともに、ライフサイクルからみた身体的・心理的・社会的特徴と個人的要因や社会的要因に伴う健康課題の特徴の理解を基盤に、わが国の保健政策と、主要な看護の概念や理論について学修する。さらに、健康を「健康－不健康の連続体」として捉え、多様な要因により発生する健康・生活上のニーズや健康課題の特徴を生活環境や生活習慣などと関連づけて理解するとともに、地域の疾病罹患率や死因統計から、健康課題の特徴と地域保健医療計画の概要を理解する。その上で、地域の人々の健康維持・増進、疾病予防と健康な生活を支援する看護アプローチの基本を学び、個人及び集団に対する健康教育事例の展開をとおして、より健康的な生活を実現するための支援方法について考察する。また、地域における健康支援に必要な、保健医療福祉における他職種連携や協働の現状と重要性を理解し、看護師の役割を考察する。	
		プライマリ ヘルスケア論	（概要）プライマリヘルスケア（PHC）、ヘルスプロモーションなどの理念を基盤として、地域で生活する人々への健康支援について、母子保健、高齢者対策、成人病予防に焦点を当てて学修する。健康指標や保健医療福祉サービスなどの視点から地域と地域で生活する人々の特徴を把握し、個人・家族・集団を対象とした地域における健康増進・健康づくり・疾病予防・早期発見・早期治療・社会復帰への支援の実践と課題について理解する。 （オムニバス方式／全 17 回） （① 榊原 久孝／6 回） ガイダンス、PHC の概念と目的、医療サービスとしての PHC、ヘルスプロモーションの概念とアプローチ方法、世界のプライマリヘルスケアの歴史の変遷と現状、日本における地域保健活動プライマ・ヘルスケアの現状、PHC における保健医療提供システム、PHC における多職種協働及び連携 （② 溝口 満子／5 回） ヘルスプロモーションのための個人・家族・地域のアセスメント① ②③、個人・家族・地域に対する健康支援の方向性の検討①② （③ 下村 明子／5 回） PHC としての地域母子保健の現状及び支援の実践と課題、PHC としての小児感染症対策の現状及び支援の実践と課題、PHC としての生活習慣病予防の現状及び支援の実践と課題、事例検討：ある地域におけるプライマリヘルスケアについて考える、看護の立場で考える地域保健医療連携 （② 溝口 満子・③ 下村 明子／1 回） プライマリヘルスケアにおける看護職の役割と連携 まとめ	オムニバス方式 共同（一部）

専門科目群	看護の実践	家族の健康と看護	（概要）家族は、社会を構成する基本となる集団であり、家族が健康上の問題をもったとき、家族ユニット全体が影響を受け、個々の家族メンバーの健康に影響を及ぼす。また、個人の健康や健康行動は家族に影響を及ぼし、家族の中で学習されるという視点から、家族のヘルスケアニーズを満たし、家族の健康を促進、維持、再構築することの重要性を理解する。本科目では、家族間のコミュニケーションを促し、家族間の相互理解、意思決定、役割分担などがスムーズに行われるよう家族を支援する、看護師の役割について理解する。 （オムニバス方式／全9回） 〔30〕 山崎あけみ／6回） 家族と健康、健康な家族についての考え方、家族の構成員の健康とそれに影響する要因、家族のもつケア機能、家族のヘルスケアニーズ、家族を取り巻く文化・社会的背景、看護の対象としての家族のとらえ方、代表的な家族のアセスメントモデル、家族の健康を引き出す看護支援 〔7〕 野村 千文／1回） 老いゆく家族と看護 〔6〕 仲井 美由紀／2回） こどもとともに暮らす家族と看護、地域における家族と看護	オムニバス方式
		女性の健康生活支援看護Ⅰ	（概要）人間の健康を、性と生殖に関する側面から分析し、看護を展開する能力を養うため、妊娠・分娩・産褥・新生児期を中心に解説する。妊産褥婦及び新生児の発達課題と役割、諸問題を理解し、次世代の健全育成を目指し、女性の一生を通じた健康を維持・促進するための母子保健活動などの支援について学修する。 （オムニバス方式／全17回） 〔5〕 田辺 圭子／10回） 母性看護の基本となる概念、妊娠の生理と確定診断、母胎の生理的变化、胎児の発育、健康状態の評価、妊娠期の異常と看護、妊婦と胎児の経過のアセスメント、分娩の3要素、新生児の看護、新生児の適応生理、新生児のフィジカルアセスメント 〔15〕 谷 純子／4回） 産褥期の母体の生理的变化、産褥経過と褥婦のアセスメント、産褥期の異常と看護、周産期のメンタルヘルス 〔20〕 森 仁美／3回） 分娩が母児に及ぼす影響、親子の絆とアタッチメントの形成、乳幼児の発達と健康診断と育児支援	オムニバス方式

専門科目群	看護の実践	女性の健康生活 支援看護Ⅱ （概要）女性の生涯において、特に周産期にある女性とその家族を対象に、発達課題や健康上の諸問題に焦点を当て、より良い健康生活が送れるための援助方法を学修する。さらに、支援の方法として基本的な援助技術を学ぶため、妊娠・分娩・産褥・新生児期において必要な看護技術演習を行い、実践的なケアや母子保健活動の方法を修得する。 （オムニバス方式／全17回） 〔5〕 田辺 圭子／8回） 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、女性のライフサイクル各期の発達と特徴、看護過程事例の展開、母性看護における家族の発達と役割機能、リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、授業の振り返りとまとめ 〔5〕 田辺 圭子・〔15〕 谷 純子・〔20〕 森 仁美／9回）（共同） 母性看護技術演習、妊婦・産婦・褥婦・新生児のケア、演習技術の確認試験、看護過程の展開	オムニバス方式・共同（一部） 講義：8回 演習：9回
	女性の健康生活 支援看護実習	周産期（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期）にある女性とその家族及びライフサイクル期にある対象のヘルスニーズを理解し、女性の個別性に対応できる看護実践能力を育む。発達過程にある妊娠・分娩・産褥期にある女性と、胎生期を含む新生児及び家族を対象として、母性看護の特性を理解、それぞれの対象や発達過程に応じた実践能力を修得する。母子保健に関する法規や制度、医療機関を理解し、母子及び家族支援のための社会資源を理解する。また、専門職者として守るべき看護倫理について考え、倫理的な配慮ができる能力を培う。	共同
	在宅看護論	（概要）在宅療養を支えるシステム、在宅看護の基盤となる概念、在宅看護の対象者の特徴、継続看護、在宅における看護の提供方法、他職種との連携について学修する。また、看護実践事例を通して訪問看護師が在宅で行う看護実践の特徴と在宅看護のあり方や看護倫理について理解し、在宅看護の課題を考察する。 （オムニバス方式／全9回） 〔14〕 増永 悦子／3回） 在宅看護の社会的背景と概念、在宅看護の対象者・活動の場・看護活動の特徴、継続看護（退院支援と退院調整）、家族支援と倫理的課題、在宅看護の課題 〔33〕 野田 明美／4回） 在宅看護の動向（地域包括ケアシステム）、在宅医療を支える法と仕組み、訪問看護ステーションの運営と管理、在宅ケアチームと他職種との連携、在宅看護におけるリスクマネジメント 〔23〕 赤羽根 章子／2回） 在宅看護における看護技術の特徴、在宅看護の実践（事例の紹介）	オムニバス方式

専門 科目 目 群	看 護 の 実 践	療養生活支援 看護Ⅰ	（概要） 治癒することが困難で慢性に経過する疾患をもち、医療施設や自宅で、生涯にわたって病気や障害と共に生きていく人々の健康や生活上の課題を理解する。このような人々がもつ健康や発達課題の特徴、健康障害による生活への影響、QOLに焦点を当てた看護について理論を踏まえて学修する。また、在宅看護の対象である療養者・要介護者とその家族への理解を深め、療養型病床を有する地域の医療施設や自宅において提供される看護ケアの特徴と倫理的な課題について学修し、保健・医療・福祉システムにおける協働と連携、チームマネジメントの重要性や看護師の役割について学修する。 （オムニバス方式／全 17 回） （② 溝口 満子／4 回） ガイダンス、成人を対象とした看護の場（在宅看護を含む）、保健医療福祉システム、遺伝看護外来における看護と看護倫理、授業の振り返りとまとめ （14 増永 悦子／12 回） 長期の療養生活者への看護の基本、セルフマネジメント・スキルの獲得への支援、慢性期看護で用いられる看護の概念と理論、脳梗塞等の神経疾患患者への日常生活援助技術、慢性呼吸機能障害を持つ人と家族への看護、慢性の運動機能障害を持つ人への看護、慢性の栄養・代謝機能障害への看護、がん看護①②、終末期看護 （23 赤羽根 章子／1 回） 生涯にわたり自己管理を必要とする患者とその家族への看護	オムニバス方式
--------------------	-----------------------	---------------	---	---------

専門 科目 目 群	看護 の 実 践	療養生活支援 看護Ⅱ	（概要）自宅や療養施設で生活する慢性疾患患者の事例を取り上げ、患者と家族に適用される理論や概念を用いて、セルフマネジメント・スキル獲得への支援を中心とした看護実践を学修する。また、在宅看護で必要となる日常生活援助技術について学修する。さらに、慢性呼吸不全患者への看護技術（在宅酸素療法）、栄養・代謝機能障害者への看護技術（投薬、自己管理法）、事例による看護過程の展開（情報収集と整理、アセスメント、看護上の問題の抽出、課題の明確化、看護計画立案、看護計画の発表）また、終末期を迎える人と家族への看護について理解を深める。 （オムニバス方式／全26回） （② 溝口 満子／2回） ガイダンス、セルフケアやセルフマネジメント・スキル獲得への支援、発表と評価・授業の振り返り （<u>14</u> 増永 悦子／4回） 慢性の呼吸不全をもつ人と家族への在宅看護（事例紹介）、慢性の栄養・代謝障害をもつ人と家族への在宅看護技術、事例展開、慢性の脳・神経機能障害をもつ人と家族への在宅看護（事例紹介）、リハビリを必要とする脳梗塞患者への在宅看護事例の展開 （<u>23</u> 赤羽根 章子／2回） 慢性疾患をもつ在宅療養者の日常生活援助技術、事例の展開（事例：慢性の呼吸障害をもつ人）、生涯にわたり自己管理を必要とする人とその家族への在宅看護事例の展開（事例：栄養・代謝機能の障害を持つ人） （② 溝口 満子・<u>14</u> 増永 悦子・⑤ 吉田 ひとみ・<u>23</u> 赤羽根 章子／18回）（共同） 呼吸機能障害をもつ在宅療養者への看護技術、栄養・代謝障害をもつ人と家族への看護技術、グリーフケア、在宅におけるフィジカルアセスメント、他職種との連携を必要とした事例の展開、チームマネジメントを必要とした在宅看護事例の展開	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義：8回 演習：18回
		療養生活支援 看護実習	慢性の病いをもち、医療機関や地域の療養施設及び自宅で生活している患者とその家族を全人的・統合的に理解し、治療施設から自宅における日常生活に復帰するために、自らの力で生活を維持・拡大するセルフマネジメント・スキルの獲得やQOLの向上を支援する看護実践と倫理的な配慮などの看護実践能力の基礎を育む。病院や療養施設及び自宅で生活する患者と家族への看護や家族支援の実際を理解し、支援システムの活用上の課題や活用の在り方を考察する。訪問看護における看護マネジメントと訪問看護師によるケア提供や家族支援、他職種によるチーム連携・協働、社会資源の活用の実際を理解し、その課題と看護師の役割について学修する。また、慢性の病いから終末期を迎える人と家族への看護についても学修する。	共同

専門 科目 目 群	看護 の 実 践	急性期回復支援 看護Ⅰ	（概要）生命危機状態にあり、侵襲的な治療や救命への支援、リハビリなどの早期回復支援を必要とする対象の健康状態の特徴とその人に必要な看護について学修する。このような対象に看護ケアを実施するうえで有用な概念や理論、健康レベルに応じた看護ケアと医療施設間の連携について学修する。さらに、医療施設から地域（在宅や施設）へと移行するための保健・医療・福祉システムについて理解し、看護の対象とその家族を支える看護のあり方や倫理的な課題について理解を深める。 （オムニバス方式／全17回） （② 溝口 満子／2回） 手術患者と家族への倫理的配慮、退院支援、外来における看護と看護師の役割、授業の振り返りとまとめ 〔12〕 畠山 和人／10回） ガイダンス、急性期・周手術期の患者と看護の特徴、手術前の看護、手術中の看護、急性期看護に用いられる看護理論と活用、重症患者の感染予防、術後感染予防、電解質・栄養状態のアセスメントと管理、薬物療法、輸液管理技術、退院・転院への支援、急性期における看護過程の展開、脳神経機能のアセスメントと看護、消化機能・栄養のアセスメントと看護、授業の振り返り 〔16〕 小倉 久美子／5回） 手術後の回復に向けた看護（リハビリテーションを含む）、呼吸機能のアセスメントと看護、循環動態のアセスメントと看護、人工呼吸器装着患者の看護、酸素療法時の看護、疼痛のアセスメントと看護	オムニバス方式
--------------------	-------------------	----------------	--	---------

専門 科目 目 群	看護 の 実 践	急性期回復支援 看護Ⅱ	（概要）侵襲的な治療や早期回復支援を必要とする成人期の患者・家族の代表的な事例をもとに、有用な概念や理論を適用した看護実践やケアの技法を学修し、生命危機状況にある患者と家族の看護について学修する。具体的には、呼吸・循環のフィジカルアセスメント、消化機能のアセスメント、栄養状態のアセスメント、酸素療法、人工呼吸器管理、退院支援、看護過程の方法について学修する。 （オムニバス方式／全17回） 〔12〕 畠山 和人／4回） 急性期看護における看護過程の展開、手術後の患者の病室環境、家族への支援、クリニカルパス、創部・排泄機能のアセスメント、創傷ケア、ドレイン管理、人工肛門のケアと管理の実際 〔16〕 小倉 久美子／2回） 呼吸器に障害がある人の手術後の看護、呼吸・循環・排泄機能のフィジカルアセスメント、急性期における看護技術（12誘導心電図、1次救命技術、輸液管理法、吸引法） 〔12〕 畠山 和人・〔16〕 小倉 久美子／11回）（共同） 呼吸・循環・排泄機能のフィジカルアセスメント、1次救命が必要な患者の看護（シミュレーション学習）、看護過程の展開、輸液管理法、創傷ケア、ドレイン管理、人工肛門のケア、人工呼吸器の管理、吸引法、酸素療法	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義：6回 演習：11回
		急性期回復支援 看護実習	生体に侵襲的な手術等の治療や早期回復支援を必要とする成人期の患者とその家族に対して、看護の対象との援助的関係を築きながら、急激な健康状態の変化の時期にある患者とその家族の看護ニーズを明らかにし、根拠に基づいた看護を展開する基礎的な能力を育む。治療が終了してリハビリ施設などの地域の医療機関や施設への移行期の看護、退院後の自宅生活において必要な看護についても学修する。実施した看護の経過を「看護サマリー」としてまとめ、患者が他施設や自宅にスムーズに移行できるように看護サマリーを活用することを理解する。	共同
		高齢者の健康生 活支援看護Ⅰ	高齢期にある人を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉え、高齢者が生涯を終える時まで発達する存在であることを理解し、高齢者看護の特徴について学修する。本科目では高齢者が生き生きと日常生活を送ることができる看護を目指し、看護の対象である高齢者の特徴、高齢者に発症しやすい健康問題に対する基本的な看護を理解したうえで、高齢者とその家族を支援するための保健医療福祉制度や支援システムの活用についても学修する。また、高齢者をめぐる倫理課題を理解し、看護職の倫理的な役割について考察する。	

専門科目群	看護の実践	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ （概要）本科目では、高齢者の加齢に伴う生活の変化及び特徴的な健康課題を理解し、高齢者の生活の質の維持・向上を目指した看護の提供の意義と方法を学ぶ。事例を通して高齢者及び家族の看護に関する概念や理論を活用して看護過程を展開する。さらに、代表的な看護技術（コミュニケーション技法、身体診察法、摂食・嚥下リハビリテーション、口腔ケア、食事介助、経管栄養法、フットケア、安全な移動介助法、アクティビティ・ケアなど）を学ぶ。また看護計画に基づいて実施する基本的なケア技術（食事ケア、安全な移動、体位変換、清潔ケア、コミュニケーション技術、ヘルスアセスメント技術など）についても学修する。 （オムニバス方式／全34回） 〔7〕 野村 千文／9回 ガイダンス、認知症を伴う高齢者への看護①、授業の振り返り、転倒予防に対する看護、排泄障害を伴う高齢者の看護事例①、事例②、エンド・オブ・ライフ・ケア②③ 〔9〕 兼田 美代／9回 認知症を伴う高齢者への看護②、認知症事例③、事例④、事例⑥、感染症を予防するための看護、エンド・オブ・ライフ・ケア①、高齢者の保健医療福祉サービス事例①、事例②、家族介護者への支援 〔24〕 山下 美智子／2回 生活機能低下を伴う高齢者への看護事例①、事例② 〔7〕 野村 千文・〔9〕 兼田 美代・〔24〕 山下 美智子／14回（共同） 認知症を伴う高齢者への看護⑤、転倒予防に対する看護①②③、摂食・嚥下障害を伴う高齢者への看護①②③④、感染症を予防するための看護②③、生活機能低下を伴う高齢者への看護①②③④、総合演習①②③	オムニバス方式・一部（共同） 講義：20回 演習：14回
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	地域の高齢者施設や自宅で生活している高齢者に対して、権利と尊厳を守り、健康維持・増進、日常生活行動の拡大、日常生活の回復とQOLの向上に向けた看護実践の基礎的能力を身につける。また、高齢者とその家族をはじめとする支援者の健康と生活を支援するために、地域や高齢者の周囲にある資源の活用、保健・医療・福祉との連携と看護職の役割について実践をとおして理解する。	共同
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	高齢者とその支援者を支える看護のあり方を理解したうえで、治療の目的で医療機関に入院中の高齢者を受け持ち、健康への回復、合併症の予防、日常生活行動の回復と拡大、身体機能の改善と回復、自宅への復帰に向けた看護実践の基礎的能力を身につける。また、医療施設から地域の高齢者施設や自宅に移行する高齢者とその家族を支える継続看護をとおして、医療チームにおける他職種との連携と協働、看護マネジメントの実際と重要性、看護師の役割について学修する。	共同

専門科目群	看護の実践	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	小児看護の基本である「権利主体としてのこども」と「成長・発達」、「こども観の変遷とこどもの権利」、「こどもを取り巻く環境や社会の課題」、「こどもや家族の生活を守るための法と施策」について概観する。その上で、こどもの成長・発達を促進する看護、健康の増進・疾病予防への看護、さらに健康障害がこどもの成長・発達及び家族に影響を及ぼすことを理解したうえで、こどもの看護の主要な概念や看護に用いられる理論を学修する。また、こどもに関連する保健・医療・福祉の制度や社会資源とその意義についても学ぶ。	
		こどもの健康生活支援看護Ⅱ	（概要）小児保健と小児看護の基盤となるこどもと家族の理解から、こどもの健康や成長発達への支援と健康な生活を支援する看護について学修する。また、救急処置が必要なこどもと家族、先天性の障害や発達障害のあるこどもと家族、残された時間を生きるこどもと家族など、地域や在宅における看護支援についても学修する。事例をとおし看護計画を立案し、その計画をもとに、コミュニケーション技術、バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント技術、診療補助技術、健康教育・指導技術、遊びや学習支援といった発達支援などの方法を学ぶ。 （オムニバス方式／全34回） （③ 下村 明子／4回） ガイダンス、小児看護の対象、入院を必要とするこどもと家族への看護、終末期のこどもと家族への看護、慢性に経過する健康課題を持つこどもと家族への看護、長期療養生活を必要とするこどもの看護展開、新生児と家族への看護支援 （17 岡田 摩理／9回） こどもへの基本技術とその特徴、フィジカルアセスメント、成長・発達のアセスメントと成長発達支援、こどもの日常生活援助技術、薬物療法・検査を受けるこどもへの看護 （21 橋本 侑美／7回） 先天性障害を持つこどもと家族への看護、こどもの安全を守る看護（事故発生要因、家族とこどもへの事故防止教育、育児相談活動の実際）、こどもの急性期看護（誤嚥・転落時の看護、救急蘇生時の看護、周手術期の看護） （③ 下村 明子・17 岡田 摩理・21 橋本 侑美 演習／14回）（共同） 看護技術演習、グループワークによる看護過程の演習	オムニバス方式・共同（一部） 講義：20回 演習：14回

専門 科目 目 群	看護 の 実 践	こどもの健康生 活支援看護実習	こどもと家族に対する主要な看護理論や発達理論を理解したうえで、地域の保育所や小児関連施設において、健康なこどもの遊びや保育、疾病予防や発達支援に関する実践をとおして、こどもと家族に対して、健やかな成長発達を支援する看護、疾病予防への看護、こどもと家族の健康な生活を支援する看護実践の基礎を学修する。また、小児科外来における実習では、健康障害や発達障害、症状出現のために来院したこどもと家族の心理面の特徴や健康課題を理解して、こどもと家族へのケアリングの重要性を学ぶ。さらに、治療のために日常の生活から切り離されて入院するこどもと家族の心理的側面や健康状態、環境や生活の変化の中でこどもが入院生活を受け入れて自分らしく生活するために必要な看護を実践する中で、こどもと家族との協働によって健康回復に向かう看護のあり方を考察する。また、こどもの看護実践における倫理と権利の擁護者としての看護師の役割について理解を深める。	共同
		こころの健康生 活支援看護Ⅰ	精神保健及び精神看護の基盤となる人間理解を目的に、人間のこころの仕組みと発達、危機状況におけるこころの働きを踏まえ、精神保健と医療福祉における今日的な課題を明らかにしたうえで、生物学的・心理学的・社会的視点から精神看護の援助に必要な基礎的な概念を学修する。具体的には、精神看護の対象、看護の目的、精神看護に必要な知識と技術を理解する。脳の機能と構造、こころの健康の概念、ライフサイクルにおけるこころの発達と危機を理論に基づいて理解する。危機状況におけるこころの働きを理論を用いて理解する。精神看護の基礎的な概念を理解する。	
		こころの健康生 活支援看護Ⅱ	（概要）精神看護の対象をその人のみならず家族や地域社会との関わりを視野に入れたうえで理解し、必要な看護実践のための知識や技術、看護実践の方法を学修する。授業では、こころを病むことへの理解、基本となる精神看護の理論モデル、個人や集団への治療的アプローチ、精神科リハビリテーションと看護師の役割、家族支援、身体疾患を持つ人のこころのケア、精神保健における予防教育、地域生活支援、家族支援等について学修し、予防教育の必要性を理解するとともに、身体疾患をもつ人や看護職のメンタルヘルスについて理解を深める。 （オムニバス方式／全17回） 〔6〕 石村 佳代子／5回） 精神看護において基本となる理論モデル、看護援助に関する技術、家族支援、児童・思春期・青年期のメンタルヘルス、状態像に応じた看護（アディクション、自殺、自傷行為など） 〔10〕 千々岩 友子／3回） 精神科リハビリテーション、地域生活支援、精神科訪問看護における看護 〔18〕 出口 睦雄／2回） 入院治療における看護①、入院治療における看護② 〔6〕 石村 佳代子・〔10〕 千々岩 友子・〔18〕 出口 睦雄／7回）（共同） こころを病むということ、状態像に応じた看護②（幻覚、うつなど）、状態に応じた看護③（不安状態、強迫行為など）、事例演習（3例）	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義：10回 演習：7回

専門 科目 目 群	看護 の 実 践	こころの健康生 活支援看護実習	精神健康上の問題を有し、日常生活や対人関係に困難を抱えている対象への治療的関わりを通して、対象のリカバリーに向けた課題に、共に取り組むための支援について学修する。看護の対象を、個人又は家族、組織、社会の一員として捉え、生物学的、心理学的、社会的側面からアセスメントを通して、生活者としての全体像をとらえることを理解する。対象理解を踏まえて、相互作用の活用、看護過程の展開、集団への治療的アプローチ、精神保健福祉におけるチームアプローチと看護師の役割について実践し、看護の役割を考察する。	共同
		医療安全管理論	医療安全・医療事故の概念と事故発生メカニズム、医療の場における事故防止対策、事故防止教育、事故発生後の対応とその課題、医療事故防止システムと看護職の役割、医療安全に関する法や政策について学修する。また、具体的な看護業務に関連して発生する事故の具体的な防止方法、サーベイランス、事故防止のための安全用具の活用について理解する。病院内で発生する医療関連感染の予防と清掃、消毒、物品管理などの病院内衛生管理についても理解を深める。	
		感染予防看護論	地域社会や医療の場で問題となっている感染症とその感染対策について理解を深め、感染成立のメカニズムと感染予防及び感染管理の理論と基本となる感染予防技術を学修する。また、医療関連感染として問題となっている伝染性の強い感染症や薬剤耐性菌感染症の感染経路、病態、診断・治療、感染予防対策、感染症患者の看護について学修する。さらに、医療の場で問題となっている病院内の高頻度接触環境表面の汚染と、清掃、消毒、物品管理などの衛生管理について理解を深める。	
		クリティカルケア論	（概要）クリティカルケアは、突発的な事故や重篤な疾病などによって、生命の維持が困難な危機的状況にある人々とその家族への、急変時の対応と専門的・集中的な看護援助を実施することを扱う看護領域である。クリティカルケアの看護の基盤となる概念・理論とケアの方法、及び倫理的な課題について事例を通して学習する。これらの学習を通して、自己の看護観や専門的な看護の方向性について考えを深める。 （オムニバス方式／全9回） 〔16〕 小倉 久美子／3回） 生命の危機的状態とは、クリティカルケアとは、クリティカルケアを行う場と看護実践 （31 鈴木 里美／3回） クリティカルケアを支える看護理論、ICUなどの病棟における看護の実際、ICUにおける合併症 （30 坂田 久美子／3回） 救急外来における看護実践（アセスメント、初療時の対応と看護師の業務・役割）、クリティカルケア領域の倫理的課題	オムニバス方式

専門科目群	看護の実践	緩和ケア論	生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族を理解し、早期より痛みや、身体的・心理社会的問題、スピリチュアルな問題にアプローチする理論と方法について学修する。また、人生の終末期を生きる人と家族への思いや苦悩について理解し、終末期ケア（ターミナルケア）における患者とその家族のQOLの向上を目指すケアの概念、実際の看護事例において明らかになった倫理的課題を紹介する。授業での学修を通して、自己の看護観や専門的な看護の方向性について考えを深める。	
		グローバルヘルスケア論	（概要）本科目では、疾病のリスクや疾病を抱える人々の健康問題に焦点をあて、保健、医療、福祉を含めた総合的なケアサービスを提供するために必要なチームアプローチのあり方を検討する。本科目では、「地域包括ケアシステムの現状と課題」について調査を目的としたフィールドワークを行う。得られた結果をレポートにまとめ、発表する。これらの学修を通して、有効なチーム医療のあり方とチーム医療を推進する看護師の役割、さらにリーダーシップとメンバーシップについても考察する。 （オムニバス方式／全9回） （① 榊原 久孝／2回） ガイダンス、発表会（評価と授業のまとめ） （⑥ 仲井 美由紀／7回） グローバルヘルスケアの概念と扱う範囲、社会的な背景、チームアプローチとは、フィールドワークの方法、フィールドワークの目的の明確化と計画、フィールドワークの実施、結果のまとめ、発表・討論、授業のまとめ	オムニバス方式
	看護の統合と発展	看護教育学	社会の変化と我が国の看護教育制度の変遷を概観し、看護教育の特徴と理念、学習理論、看護基礎教育及び継続教育の特徴と諸課題について理解し、看護職者に求められる教育者としての資質や社会的役割、教育のあり方について学修する。授業では、看護教育の歴史の概要、看護教育における「学び」の特性と教授－学習課程、カリキュラムデザイン、看護の継続教育、生涯教育の実際、看護専門職に求められる教育者の資質について、討論を交えて授業を展開し、社会に期待される看護の役割と看護教育の在り方について理解を深める。	

専門科目群	看護の統合と発展	国際看護論 （概要）個々の民族やグループが持つ文化や健康観、保健行動の違いを理解し、異なる文化的な背景を持つ人々の健康向上のための仕組みと保健医療の実現における課題について学修する。さらに、国際保健医療の見地から、国内外で求められる看護活動の実際とその課題を理解する。 （オムニバス方式／全9回） ⑥ 仲井 美由紀／3回 インド北部における小児の健康状況の調査と医療支援活動 32 志賀 由美／2回 アジア圏における看護職の国際移動の課題 33 濱井 妙子／2回 在日外国人の医療へのアクセスとその支援活動 54 佐藤 千歳／2回 国際プロジェクトの実践	オムニバス方式
	看護管理学	（概要）質の高い看護サービスを提供するため、看護管理の概念と基本的な考え方を学び、そのうえで組織・個人が担う役割や、看護サービスの質を保障するための仕組みについて学修する。具体的には、ヒューマンヘルスケアサービスの仕組み、医療施設の組織構造、看護部門の構造機能、看護提供システムの仕組み、チームにおける他職種との連携・協働、看護管理の実際について事例を提示して解説する。また、看護の質の向上に向けて看護職が直面している諸問題とその政策決定過程について理解する。そのうえで将来の看護職の一員として、看護の質の向上を目指して、自己の能力を発展させる重要性和責務への自覚を育む。 （オムニバス方式／17回） 5 白鳥 さつき／2回 医療施設の組織構造と看護部門、組織文化と風土 13 鈴江 智恵／14回 看護管理の概念、看護管理の基礎となる理論、看護を取り巻く制度、看護部門の役割とマネジメント、看護サービスのマネジメント、ケアの質保障と評価、看護職としてのキャリア形成、看護職が直面している諸問題 13 鈴江 智恵・5 白鳥 さつき／1回（共同） 授業の振り返り・まとめ	オムニバス方式・共同（一部）

専門科目群	看護の統合と発展	災害看護論	災害看護の目的、特徴について概観し、災害の種類による健康課題や看護ニーズ、看護職の役割について、国内外における看護活動の実態を提示しながら解説する。具体的には、被災者や家族の生活や生活環境の変化、生活上の障害と困難、災害サイクルと特有な疾病、被災者の心理と短期的・長期的影響、さらに、被災時に必要な対応である「トリアージ」、「応急処置」、「感染予防」、「災害時の看護の役割」、「支援活動の実態」について討論を交えながら学修を進める。	
		キャリア形成論	(概要) キャリアとは、組織内の昇進、専門職の体系的なステップ、生涯にわたる職業経歴、社会的な認知、仕事に関連した生涯にわたる諸経験などである。本科目では、キャリア形成とは、どのようなことかを問い、そのプロセスを通じて、看護職となる自分を見つめ、将来の仕事・職業、社会に主体的に向き合い、自己の目標を実現する考え方や能力を育む。授業では、キャリア形成の概念、自分らしさの発見、職業観の形成、看護職の特性、キャリア準備、キャリア・ラダー、自己管理、自己実現、社会貢献について事例の提示や討論によって理解を深める。 (オムニバス方式／全9回) (34) 加藤 みちよ／5回 キャリア形成の概念、自分らしさの発見、将来の職業像、看護職のキャリア形成とは、キャリア・ラダーとは (35) 山田 葉子／4回 キャリア形成の道（プロセス）、なりたい自分の将来像を明らかにする、キャリア準備、自己実現、なぜキャリア形成を考えるか	オムニバス方式
		総合ゼミナール	連携ゼミナールⅠとⅡで取り組んできたテーマの計画に沿って活動を進め、各自が活動した結果をまとめてポートフォリオを作成する。ポートフォリオをもとに発表原稿を作成する。学生が発表会を企画・運営して、学生間で討論を行う。各自が実施したプロジェクトをレポートにまとめてプロジェクトの評価・考察を行い、自己の今後の課題を明確にする。これらの一連の取り組みを通して、課題解決に向けた企画力・行動力、表現力、コミュニケーション能力、課題解決能力などの総合的な実践力を育む。	共同
		卒業研究	本科目では、研究の必要性を理解し、研究疑問を明らかにして、文献検討、研究の目的、研究デザイン、研究倫理を踏まえて研究計画書を作成するための基礎的能力を養う。研究指導教員のもとで、研究計画に基づいて研究を行い、論文を作成して発表する。これらの一連の過程を通して、広い視野を持って問題をとらえ、科学的な態度で問題解決に向かう姿勢を養うとともに、学術的なものの見方・態度などの総合的な課題解決能力を培う。また、指導教員や研究協力者などとの交流を通して人間理解を深め、看護の可能性を広げる視点を養う。	共同

専門科目群	看護の統合と発展	総合看護実習	地域や在宅で生活する人とその家族が持つ健康課題を総合的に捉え、看護の対象が必要とするケアを立案し実践する。看護実践では、保健・医療・福祉関係者との連携や資源の活用、看護マネジメント、相談、教育、調整なども必要に応じて計画して実施し、評価を行う。看護の実践を通して総合的な看護実践能力を培う。また、地域包括ケアシステムにおけるチームの中で、医療機関における入院生活から在宅や地域の施設への移行、又は在宅から医療機関への移行において必要な看護を提供し、看護職が果たす役割と看護提供のあり方、責任感、倫理観、自己の看護観を探究する。	共同
		看護実践論	（概要）今日の高度医療においては、専門性の高い高度な看護を提供する必要性が高まり、その看護実践が注目されている。専門性の高い看護実践とはどのようなものか、また看護師が果たす役割は何かを理解し、看護師としての専門性を向上していくための自己の課題を考察する。授業では、専門性の高い看護の実践者から看護実践の内容や実践者としての役割、高度実践者育成の動向と課題について講義を受け、看護実践のあり方について自己の考えを深める。 （オムニバス方式／全9回） （1 土井 まつ子／2回） ガイダンス、専門性の高い看護職とその育成、授業の振り返りとまとめ （30 坂田 久美子／1回） 我が国のフライトナースの看護実践と課題 （47 岡野 晶子／2回） 米国におけるナースプラクティショナーの看護実践と課題 （49 新改 法子／2回） 我が国における専門看護師の看護実践と課題 （50 池田 和子／2回） エイズ治療・研究開発センターケア支援室における看護支援調整職の看護実践と課題	オムニバス方式

助産師課程専門科目群	周産期医学論	（概要）妊婦初期から中期・末期、産後における代表的な疾患について、疫学的状況、病態、特徴的な症候、治療法、予後等の基本的事項を学修する。授業では、可能な限り症例を提示し、母親及び新生児の正常からの逸脱を早期に発見、予知、さらには予防するために必要な知識や判断について、事例検討を行う。また、公衆衛生的な取り組みや倫理的事項についても、事例を検討することを通して理解を深める。 （オムニバス方式／全17回） （80 嶋津 光真／3回） 周産期医学とは、妊娠期の異常（妊娠持続期間の異常、着床異常、他） （82 岡 京子／2回） 出生時診断、不妊治療 （81 坂井 啓造／2回） ハイリスク妊娠、胎児異常妊娠、婦人科疾患合併妊娠 （83 白石 弘章／2回） 分娩期の異常（分娩3要素の異常、分娩に伴う損傷・出血、他）、産科手術、産科救急 （84 今永 弓子／2回） 産褥期の異常（精神疾患、他） （43 三嶋 廣繁／6回） 新生児救急、妊娠・出産に伴う偶発・合併疾患、母子感染症の診断と治療	オムニバス方式
	助産学総論	（概要）助産の基本概念、変遷過程を理解し、対象の特性及び国際的な視野を含めた幅広い助産活動を行うために必要な基本知識を学修する。地域母子保健における助産師の社会的使命と役割・機能を理解するとともに、助産の意義や対象を広くとらえ「助産、助産師とは何か」を絶えず問いかけながら考え、学修することをねらいとする。また、助産の概念、変遷と助産過程の展開方法、女性のライフサイクルと健康問題、助産実践における倫理等について学ぶ。 （オムニバス方式／全9回） 〔5〕 田辺 圭子／8回） 助産学の基本概念、助産学の特性と責務、助産師に関わる関連法規、助産師を取り巻く医療の課題（少子化、高齢出産、性感染症、周産期関連の家庭内暴力）、授業の振り返りとまとめ （42 宮里 和子／1回） 助産師の歴史と文化	オムニバス方式

助産師課程専門科目群	助産管理論	（概要）助産業務の管理および助産師外来や院内助産を含めた助産所の管理運営の基本に関する理解を深め、助産師業務を評価・調整する基礎的な能力を養う。また、周産期医療を取り巻く助産管理の実際と課題（医療事故防止とその対応、災害時の看護等）を様々な助産活動の場を通して理解する。 （オムニバス方式／全17回） 〔5〕 田辺 圭子／4回） 助産業務の基本概念とプロセス、助産管理の概念・特性、災害時の助産管理、NICU、MFICU／NICU）、助産業務のあり方についての考察、授業の振り返りとまとめ 〔15〕 谷 純子／2回） 病院内の助産管理（助産師外来）、病院内の助産管理（院内助産） （42 宮里 和子／11回） 助産管理システム、助産管理と関係法規、助産師の法的責任と業務、医療事故とリスクマネジメント、助産所の管理・運営・業務内容、助産所の管理と運営の実際、周産期医療と助産管理の実際、災害時の助産管理	オムニバス方式
	助産診断技術学 I	（概要）女性のライフサイクルにおける性と生殖の健康と異常に関する基礎的な知識を養う。また、必要な相談・教育・援助技術の理解を深め、その実践を通して、性と生殖にかかわる健康問題への援助を展開できる能力を育む。正常な経過をたどるマタニティサイクルにある対象者（妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族）の健康水準を助産診断するために必要な基礎的知識について学修する。 （オムニバス方式／全17回） 〔5〕 田辺 圭子／10回） 助産診断の基本概念と枠組み、妊娠期の診断とケア（妊娠の生理、確定診断、妊娠経過と産科学的診断、正常経過からの逸脱、異常の診断）、新生児期の診断とケア（新生児ケアの基本、新生児の適応生理、ハイリスク新生児のケアの基本、早産児・低出生体重児のケア、家族へのケア）、乳幼児の成長発達と健康診査と家族指導、授業の振り返りとまとめ 〔15〕 谷 純子／4回） 分娩期の診断とケア（分娩の生理、分娩経過と助産診断、正常経過の逸脱・異常の診断）、家族への支援 〔20〕 森 仁美／3回） 産褥期の診断とケア（生理と診断、褥婦へのケア、家族への支援、正常経過の逸脱と異常の診断）	オムニバス方式

助産師課程専門科目群	助産診断技術学 II	（概要）妊娠・分娩・産褥各期における女性の身体的・心理社会状態について、正常経過とその逸脱を独自に判断でき、対象により良い健康レベルの援助を提供するための必要な基礎実践能力について学修する。助産過程に必要な原理と技法を理解し、事例展開を行って、実際に活用できる能力を修得する。 （オムニバス方式／全34回） 〔5〕 田辺 圭子／17回） 妊娠期の助産診断（フィジカルアセスメント、分娩経過と診断ケア、保健指導、日常生活適応とマイナートラブルへのケア、心理的・社会的ケア、ハイリスク妊婦のアセスメントと支援、新生児期の助産診断（フィジカルアセスメント、出生時とケア、ハイリスク新生児の病態とケア）、新生児の診断と援助（出生直後の児の取り扱い、臍帯ケア、点眼、身体測定）分娩期の助産診断（フィジカルアセスメント、分娩経過と診断・ケア、分娩介助法、分娩期に伴う胎児の回旋・呼吸法・介助技術、分娩第1期の診断、分娩第2期の診断、分娩第3期と第4期の診断） 〔15〕 谷 純子／9回） 分娩期の基礎技術演習、産褥期の助産診断（フィジカルアセスメント、心理・社会的な診断）産褥期の診断と援助（正常経過の逸脱・異常の診断STS、胎盤測定、出血量測定、分娩第4期のケア、家族へのケア）急墜分娩術の適応と禁忌、産科麻酔・麻酔分娩 〔20〕 森 仁美／2回） 分娩期の助産診断（産痛のメカニズムと産痛緩和、心理・社会的な診断） 〔5〕 田辺 圭子・〔15〕 谷 純子・〔20〕 森 仁美／6回）（共同） 正常分娩介助（分娩の準備、分娩介助の準備、分娩第2期と第3期の介助、間接介助と新生児系の役割、新生児の診断と看護、褥婦の看護、他）	オムニバス方式・ 共同（一部） 講義：28回 演習：6回
	助産学演習	周産期にある母子と家族へのケアに必要な知識・技術・態度を養うために、助産診断に基づき、助産の模擬体験を行いながら、助産診断技術と分娩介助技術などの助産技術を修得する。また、周産期における出産準備教育、産褥期の保健指導の事例を通して、女性の健康の視点から健康教育の意義と教育方法について学修する。演習では、妊娠期の助産診断と保健指導の実際、分娩時の助産診断と分娩介助、産褥期の助産診断と保健指導、新生児仮死蘇生法、分娩介助技術、分娩進行のアセスメントについて学ぶ。	共同

助産師課程専門科目群	助産学実習Ⅰ	マタニティサイクル各期の母児とその家族を対象とした助産過程を展開し、助産ケアの実践を通して助産学に必要な理論と原理、原則及び知識・技術・態度を学修する。継続事例を通して、正常な妊娠・分娩・産褥期のケアを実践し、母児の安全・安楽な妊娠・出産や育児への支援のために必要な、助産師としての役割・責務を理解し、母子及び家族への健康生活に必要な看護を提供する能力を育む。また、緊急時及び周産期における異常時の処置や、ハイリスクな対象者とその家族への援助の実際を学ぶ。	共同
	助産学実習Ⅱ	助産学実習Ⅰを踏まえ、助産学の基本的知識とエビデンスに基づいて総合的に対象の状態を判断し、対象に応じた助産と診断に基づくケアができる能力を修得する。また母子保健活動における助産師の役割を理解し、関係する他職種、多機関との協働や連携ができる能力を養う。さらに助産所の見学実習を通して、開業助産師の地域における母子保健活動及び助産所業務の管理運営の実際を学び、地域で活動する助産師の専門性と役割の課題について理解を深める。	共同